

授業科目：成人看護学実習Ⅱ（健康の危機状況にある人の看護）

科目目標：1 健康の危機状況にある対象の特徴を理解できる。

2 周手術期にある対象の看護ができる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 身体に急激な変化のある対象の特徴を踏まえ状態を述べるができる。	1) 身体的特徴 (1) 急激な症状の発生経過 (2) 自覚症状 (3) 疾患・治療・処置・看護の経過 (4) 合併症・二次感染 2) 精神的特徴 (1) 急激な自覚症状による苦痛 (2) 生命の危機感・不安 (3) 治療・検査・処置に伴う苦痛 3) 社会的特徴	<ul style="list-style-type: none"> • ICU、CCU、救命救急センターの見学を行う。
2 手術を受ける対象の看護ができる。 1) 手術療法を受ける対象の特徴を述べるができる。	1) 全身状態の把握 (1) 手術侵襲（術式・麻酔）が生体に及ぼす影響 2) 対象及び家族の心理状態の把握 (1) 手術に対する不安・恐怖・喪失に対する反応 3) 手術による社会的役割への影響	<ul style="list-style-type: none"> • 周手術期にある対象を受け持ち、クリニカルパスを用いて看護を展開する。
2) 手術前の看護ができる。	1) 術前検査時の看護 2) 手術前の準備 (1) 術前オリエンテーション (2) 術前検査 (3) 術前訓練 (4) 緊張・不安の把握と緩和 (5) 必要物品の準備 (6) 前処置 (7) 術前訪問	<ul style="list-style-type: none"> • 術前の情報をアセスメントし、術後に起こりやすい合併症を予測し、観察や援助につなげる。
3) 手術中の状態を述べられる。	1) 麻酔による呼吸・循環・代謝・消化器への影響 2) 手術中の観察 (1) 麻酔の種類、方法、術式、手術時間、出血量、バイタルサイン (2) 体位と固定法 (3) ドレーン、カテーテルの種類、挿入部位 (4) 手術の経過 3) 皮膚損傷予防 4) 不安・緊張に対する配慮 5) 手術中の安全管理 6) 手術室看護師の役割	<ul style="list-style-type: none"> • 対象の手術を見学し、術後の援助に活かす。

行 動 目 標	内 容	方 法
<p>3 手術後の看護ができる。</p> <p>4 手術後合併症の予防、苦痛緩和、早期回復に向けた援助ができる。</p>	<p>1) 術後の観察 (1) 麻酔覚醒状態 (2) 全身状態 (3) 創部の状態 (4) チューブやドレーン類 (5) ドレッシング材 (6) 検査データ (7) 水分出納バランス (8) 心身の苦痛</p> <p>2) 術後の安全管理</p> <p>3) 心身の苦痛の緩和</p> <p>1) 手術後合併症予防に向けた援助 (1) 回復意欲・自立度に応じた援助 (2) 早期離床 (3) 創部、ドレーンの管理 (4) 日常生活の援助</p> <p>2) 社会復帰に向けての援助 (1) 生活の変更や改善への指導 (2) 機能回復に向けての援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 術後観察表を活用して観察を行い、異常の早期発見と苦痛の緩和の援助につなげる。 • 実践活動外学習で、シミュレーション学習を行う。 • 臨地及び実践活動外学習で、周手術期に起こりやすい事故や安全対策について、カンファレンスで検討する。 • 指導を行うときは、計画書を書き、必要時指導教材を準備する。